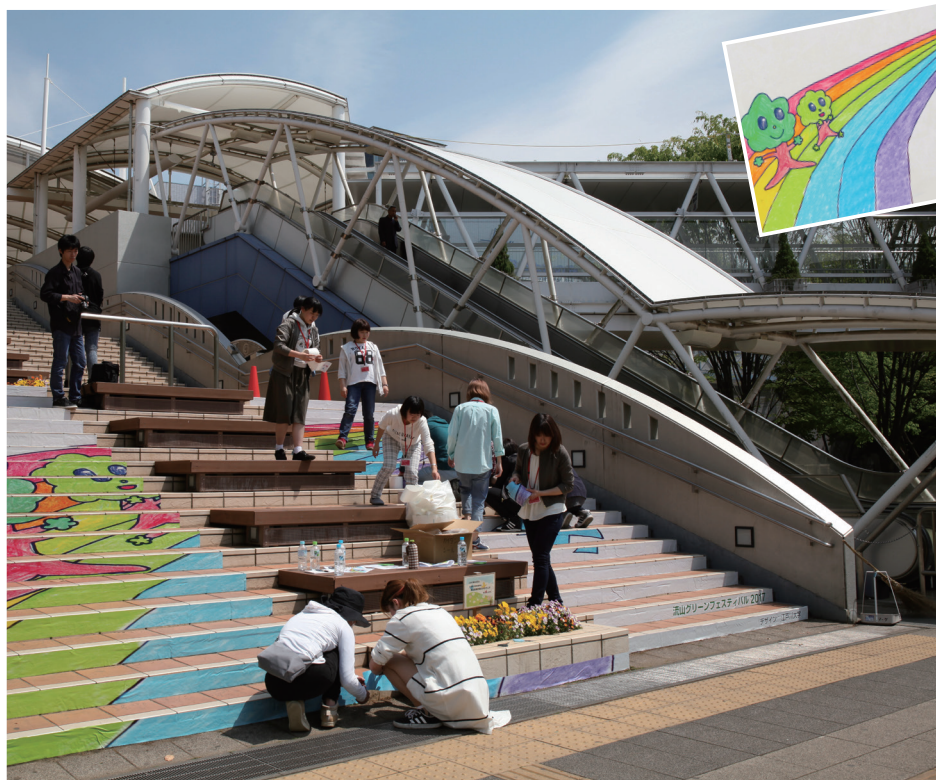


ステップアートで 流山の豊かな自然を表現

今年もエド・アドが活躍



4月29日から5月4日まで、流山おおたかの森駅南口都市広場で、流山グリーンフェスティバル（主催：同実行委員会）が開催された。駅から広場に降りる階段に貼られた恒例のステップアートは、29日に江戸川大学の架充広告会社「エド・アド」の社員、1年生8人、3年生4人、計12人が作製した。（撮影・取材・文 増田朱音）



同フェスティバルの今年のテーマは「50のhope」だ。流山市の市政施行50周年を記念し、これから先の新しい50年も、緑豊か



社長の高橋優奈さん

エド・アド社長 抱負を語る

今回の企画の中心となって活躍していたのがエド・アドの社長、マス・コミュニケーション学科3年の高橋優奈さんだ。

「ステップアートは、初めは、階段に一段ずつ貼っていく過程で、ずれが出てきれいに貼るコツを1年生に教えていた。頼もしい3年生のおかげで1年生の緊張も解け、次第に笑顔がみえてきた。

2時間ほどでステップアートができあがると「完成が楽しい」と作業を見守っていた地元の人々から、「とてもきれい」「遠くから見ても目立つ」などの声がかかれた。

フェスティバルを主催す

しまい修正するのが大変でした。でも、今年は社員が多く、作業がはかどりました。

これからの意気込みについて聞くと、「先輩方から社長に推薦されたからには、一生懸命やりたい。もらったチャンスを自分なりにやれるところまで全力でやりたい。先生方の期待にも応えたい。江戸川大学の名前を背負っているから、任された仕事はきちんと行い、楽しく皆で活動したい」と熱く語った。

で人々の希望があふれるようにとの願いが込められている。

ステップアートは「hope」という単語から連想し、「星・虹・青い鳥・四つ葉のクローバー」のイメージを散りばめた。また、流山市のキャッチフレーズが「都心から一番近い森のまち」なので、可愛らしい木の親子もデザインした。子どもが遠くから見てもわかりやすくなるようにエド・アドの社員たちが意見を出し合い絵柄を考えた。原画完成までに1か月かかった力作だ。

29日の作業は、1年生が多かったため最初は少し緊張しているようだった。2人1組になり、空気が入らないように丁寧にシールを貼っていく1年生の顔はとても真剣だった。

そんな1年生をサポートしていたのが3年生だ。昨年までの経験を活かして